

Back Number

本論文は

世界経済評論 2021年9/10月号

(2021年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

通貨・租税外交 ：協調と攻防の真実

外務省経済局国際貿易課長 安部 憲明



[著者] 浅川雅嗣 (あさかわ まさつぐ)

アジア開発銀行総裁

[聞き手] 清水功哉 (しみず いさや)

日本経済新聞社経済解説部編集委員室編集委員

[発行] 日本経済新聞出版, 2020年7月刊

[判型] 四六判, 268ページ

[定価] 本体2200円+税

アジア開発銀行総裁である著者が、日本政府の財務官時代の経験を中心に口述した回顧録である。浅川氏は、リーマン危機に対処した麻生太郎総理大臣、その後も同財務相兼副総理の秘書官として、霞が関の不文律を破る高い年次で仕えた。激動の時代に歴代最長4年に及んだ財務官の職は、著者のように献身的で、エネルギーで陽性な人物でなければ到底務まるまい。本書では、旧知の日経記者である清水功哉氏が、日本の公人にある「墓場まで」の美德をよしとせず、同時代の政策検証に厳しく挑み、鮮やかに成功している。

冒頭の2章「円高との戦い」と「身構えたトランプ政権登場」は、本書の劈頭を飾るに相応

しい。読者は、いきなり為替問題の機微な舞台裏に息を潜め、米政権と対峙した経済交渉の臨場感に圧倒されるだろう。全編にわたり、まだ生温かい呼吸のあるテーマに関してはノー・コメントと言い切る反面、国際通貨・租税の「マフィア」として人脈を縦横に駆使し、理論と実践の両面で国際協調の歯車を回す現場譚を惜しみなく伝えている。

浅川氏は、首脳の懐刀として、時に国内政治の淵に臨む立場にもあり、政策と政治の万般にわたり「黒子」として重宝されたことは疑いない。同時に、ミスター・アサカワは、アジアでの通貨融通を飛躍的に高めたチェンマイ構想の実現に奔走した主役であり(第5章)、OECDでは租税委員会議長として企業の「税逃れ」を当局間の協調で防止する多国間枠組の生みの親として名をはせ(第6章と第7章)、G20大阪サミットでは国際協力の先駆的な各種事業の成功を導いた(第8章)。

評者は、役所は異なるが、中国主導のアジアインフラ投資銀行への参加問題(第4章)、OECDやG7/G20などで著者と戦線を共にする僥倖に恵まれた。それを追体験しながら読むと、事実に忠実に、ときどきの政策決定とそこに至る過程を丁寧に説明せんとする著者の責任感に心を打たれる。コロナ危機を乗り切る「鍵は、ここでも多国間の政策協調だろう」と、自らの経験を未曾有の課題解決に役立てたいとの熱意がこの一冊を貫いている。

欧米人が言う「ルネッサンス・マン(万能人間)」は、毎月続いた最後のパリ出張で、著者の業績を讃えるべくOECD本部に立錐の余地なく集った各国の同僚を前に、フルート演奏を披露し大喝采を浴びた。「安部君さ、俺、甲子園のアルプス応援もクラシックも両方いけるんだぜ」と母校静岡高校への愛を表す。趣味のバイクは多忙を極めるマニラ勤務でしばらくお預けだろうが、著者には、富士山を背負い大海原沿いを疾駆する姿が実によく似合う。

(あべ のりあき)